

平成30年10月1日

岩邑小学校保護者様

恵那市立岩邑小学校
校長 吉村 良

「西郷さんの言志録 in 岩村」について

爽秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動に深いご理解と温かいご支援を頂き誠にありがとうございます。

さて、学校報等で繰り返しお伝えしておりますように、岩邑小学校では、「ふるさとを愛する子」を育てることを大切にしています。具体的には、ふるさとの偉人や文化についての理解を深めたり、積極的に地域活動へ参加したりしています。その一環として、「西郷さんの言志録 in 岩村」を企画しました。詳細は以下の通りです。興味のある保護者の方に参加して頂きやすいように、授業参観日の朝の時間に位置づけました。興味のある保護者様は、是非、活動の様子をご覧ください。

記

1：ねらい

子ども達が岩村の町のどこに南洲手抄言志録の条文があるかを調べる活動を通して、次の2点をねらう。

- (1) 西郷隆盛という偉人と一斎先生とのつながりを学習することを通して、一斎先生の偉大さを実感したり、言志四録の条文についての理解を深めたりする。
- (2) 現在、南洲手抄言志録が岩村のどこに掲示されているかをまとめたデータ(マップ)が存在しないので、このデータを岩邑小学校の児童の力で創り上げることで、活動の成就感や、地域へ貢献することの達成感を味わわせる。

2：日時 10月11日(木) 8時30分出発～9時05分帰校(小雨決行)
(朝の会后、8時25分知新門整列完了)

3：活動内容・・・10月11日(木)は活動内容(1)のみ行います。

- (1) ふれあいグループ(1年生から6年生までが縦割りグループになっている。全部で10グループあります。)ごとに分担の場所へ出かけ、情報収集を行う。南洲手抄言志録にのっている句が岩村の町のどこにあるのかを見つける。タブレットで写真を撮り、句のある場所をマークする。
- (2) 6年生が中心となり、集めた情報をどのように活用するかを考える。
- (3) 岩邑小学校全校児童による「西郷さんの言志録 in 岩村」という情報地図を発行し、地域に活用してもらえるようにする。

*裏面に一斎先生と西郷隆盛さんの関係についての情報を載せました。子ども達には、この内容はすでに伝えてあります。ご家庭でもう一度、話題にしてくださいと理解が更に深まると思います。よろしくご指導ください。

西郷隆盛さんが15年肌身離さず持ち歩いた言志録とは

『言志録』とは、幕末の昌平坂学問所の儒官（現在でいう東京大学総長）の一斎先生が、数十年にわたって書き継いだもので、リーダーシップ、人や仕事との向き合い方、学ぶことの大切さなどについて縦横無尽に語られている随想録、現代風にいえばエッセーです。

一斎先生の弟子には「松下村塾」で幕末の俊英たちを育んだ吉田松陰の師匠・佐久間象山や、坂本龍馬や勝海舟の師である横井小楠がいます。

つまり一斎先生の孫弟子、ひ孫弟子たちが倒幕を成し遂げ、近代日本を築いたわけであり、その一斎先生の思想がすべて詰まった『言志録』は、「明治維新の原動力」になったと言っても過言ではありません。

西郷隆盛（以下、西郷さん）がこの書に触れたのは、2度目の流罪先である沖永良部島（おきのえらぶじま）の獄中でした。時間だけはたっぷりあった西郷さんは、さまざまな書物を読破したのですが、中でも『言志録』に感銘を受けたようで、印象的な一節を書き抜いて101篇にまとめ、それを「西南戦争」で敗死するまでの約15年間、肌身離さず持ち歩いたのです。この101篇を「南洲手抄言志録」といいます。

* 1 南州・・・西郷さんのこと

* 2 岩村の町にある言志四録の木版のうち、南洲手抄言志録には、それを示す下図のようなマークがあります。